

図書館だより

東金市立東金図書館
図書館だより第50号
(令和元年度)
令和2年2月発行

★★★★中面では、**利用者の皆さんのおすすめ本**を掲載しています★★★★

図書館だより第50号!

現在の東金図書館が開館したのが**39年前**の昭和56年(1981年)。

その翌年の昭和57年(1982年)に図書館だよりの前身である

『**私たちの図書館**』の第1号が発行されました。

今号では**当時の図書館の様子や人気の本**などを紹介します。

電算化される前の図書館は…?

『私たちの図書館』第3号(昭和58年)「図書館の目録」より一部抜粋

図書館では、新しく本を受け入れると、書名・著者名・出版地と出版社・出版年・大きさやページ数、シリーズ名など、その本を表すのに必要な事項を目録カードに記入します。そして、その目録カードに必要枚数だけ複写し、それぞれに書名、著者名などの見出しをつけ、五十音の順番に配列します。それぞれ書名目録、著者名目録として編成されるわけです。読みたい本が、その図書館にあるかどうか確かめたい時、正確な書名、あるいは著者名さえ知っていれば即座に答を得ることができます。(中略)目録カードは、タテ7・5センチ、ヨコ12・5センチの小さなカード、世界共通ですが、求める人と本がスムーズに出合えるための仲介役でもあり、また図書館にある何千冊という本についてのデータバンクでもあるのです。

東金図書館がコンピュータシステムを導入したのは、21年前の平成11年(1999年)です。それまでは、目録を紙のカードで管理していました。現在は、館内の検索機で調べることができるのはもちろん、皆さんのパソコンやスマートフォンから図書館のウェブページへアクセスすれば、いつでもどこでも資料を調べることができます。(アドレスやQRコードはこの図書館だよりの最終ページに掲載しています。)

当時人気だった本は…?

『私たちの図書館』第1号(昭和57年)「最近よまれた本」より一部抜粋

1. 黒柳徹子「窓ぎわのトットちゃん」(児童/91/ク/1.2)(文庫本/B/914)(一般/914/ク)
2. 山岡荘八「徳川家康」(文庫本/BF/ヤマ/1~24)
3. 井上ひさし「吉里吉里人」(文庫本/BF/イノ/1~3)
4. 森村誠一「悪魔の飽食」(閉架書庫/F/モ/1)
5. 青島幸男「人間万事塞翁が丙午」(閉架書庫/F/ア)(大活字本 LF/ア/1)

「窓ぎわのトットちゃん」や「徳川家康」など、現在もよく読まれている本があげられていました。まだ読んだことがない方はぜひ、当時読まれた方ももう一度手に取ってみませんか。閉架書庫にある本をご希望の方はお気軽に職員にお声がけください。

『私たちの図書館』から『図書館だより』へ…

『私たちの図書館』は第48号（平成7年）まで発行されましたが、それ以前の昭和62年（1987年）より、『図書館だより』の発行が開始されました。現在の図書館だよりは、主に図書館内での配布と市内地区回覧を行っていますが、第1号は新聞折り込みにより市内に配布されました。

内容を見てみると、当時の蔵書冊数は約4万4千冊、年間貸出冊数は約6万冊とのこと。（現在の蔵書冊数は約15万冊で、年間貸出冊数は約26万冊。）当時の児童室の写真が掲載されているのですが（写真1）、閲覧スペースはとても広々としていて、マットレスのような大きなソファにお子さんが寝そべて本を読んでいる様子が写っていました。今ではそのソファはありませんが、そのぶん書架がたくさん並んでいて、より多くの資料を皆さんに提供できるようになりました。

図書館や東金市についてもっと知りたい方は…

1階パソコン席付近のふるさとコーナー（写真2）には、貸出のできる郷土資料を置いています。『私たちの図書館』や『図書館だより』も冊子をまとめた合本（O16/T）があります。また、2階郷土資料コーナー（写真3）には、さらに多くの貴重な資料を揃えていますので、ぜひご覧ください。



（写真1）



（写真2）



（写真3）

今年度も「本のおたのしみ袋」「本の福袋」を実施しました

年末の12月21日～28日に児童向けの「本のおたのしみ袋」を、年明けの1月4日～13日に一般向けの「本の福袋」を行いました。テーマだけが書かれた袋には本が3冊入っていますが、何が入っているかは開けてみてのお楽しみ。いつもとは違った本の借り方で、普段読まないジャンルの本にも出会えます。

アンケート用紙を同封していますが、「本のおたのしみ袋」は年末年始に会うお孫さんに喜んでもらったとの声がありました。

また、今年の「本の福袋」は利用者の皆さんにも本を選んでいただきました。（図書館内に応募ボックスを設置して募集しました。）毎年、職員全員で中身を考えているのですが、今回は皆さんの選書も加わり、幅広いジャンルの福袋を作成することができ、こちらも大変好評でした。応募してくださった皆様、本当にありがとうございました。

図書館員より…お楽しみ袋も福袋も職員で手分けをして袋詰めをしているのですが、私が担当した福袋に、利用者の方が選書した、帯木蓬生/著『悲素』（一般/F/H/A）という本がありました。題名が気になり、袋に入れる前に何ページか読んでみたらとても引き込まれました。実際の事件のもとにしたノンフィクションといえるような小説なのですが、難しそうな内容でページ数が544ページという厚めの本にも関わらず、先が読みたくなる内容でした。今度借りて続きを読もうと思っています。